

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103730		
法人名	社会福祉法人 喜久寿		
事業所名	グループホームウェルケアみどろ		
所在地	愛媛県松山市水泥町132番地1	(電話)	905-9116
管理者	山本 明美		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 29 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	13.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護 1	4 名		要介護 2	3 名	
要介護 3	6 名		要介護 4	名	
要介護 5	4 名		要支援 2	名	
年齢	平均 81 歳	最低 51 歳	最高	97 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外に向かう大きな幹線道路から少し入った田園風景が残る場所に立地する、デイサービスセンターを併設するホームである。住宅地からは少し離れているため、お隣さんの付き合いは難しいが、すぐ近くにため池の土手があり、季節を感じる散歩が楽しめる。管理者の「人を見る、人を知る」という言葉に集約される、利用者の個性を大切に丁寧なケアが実践されており、職員もその言葉を深く理解している。ホームの運営に「和」を重視しているためか職員の離職が少なく、利用者との間にはゆっくりとした時間が流れている。同法人の訪問看護ステーションとの連携で、医療的にも安心感のあるホームである。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価では、利用者の定期検診や緊急時の対応などについて具体的な取り組みが期待されたが、かかりつけ医の往診や訪問看護ステーションとの連携強化など、早々に取り組み改善されている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

ユニット毎に自己評価が行われており、自分たちの言葉で記載している内容から、自分たちのケアの振り返りに活用されていることがよく理解できる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

早い時期から取り組みがなされており、開催回数は10回を超えている。管理者は「未だに開催には緊張しています」というが、回数を重ねるごとに内容が深まっていることが議事録からも読み取れる。今後は地域との交流というテーマを意識して開催したいと、新たな取り組みを始めるようなので、期待したい。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の協力は利用者の生活の質を上げるためには必須のものとの認識が強くあり、家族などの面会時には丁寧に意見を聞き出していることが理解できる。また、職員が目が届かない場所へ意見箱を置き、家族が投稿しやすいような配慮があり、また同法人にも受付窓口を設置して明文化した上で家族に説明するなど、丁寧に対応している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

近隣に住宅がない立地条件のために、地域との連携が難しい。外出時での挨拶や地域の催し物への参加など開設当初から続けていることで、少しずつではあるが、交流がなされている。今後は、地域の人がホームに遊びに来てもらえるようなことも民生委員と考えているようなので、期待したい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ウェルケアみどろ

(ユニット名) ストロベリーハウス

記入者(管理者)
氏名 山本 明美

評価完了日 平成 19 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らしていくサービスとして理念を作りあげている。 (外部評価) 利用者が、家庭的な雰囲気の中で穏やかで豊かな生活が営めるように支援することを基本理念としており、そのためには地域との交流は必要不可欠であるとの認識は深い。しかし、「地域とは」「密着とは」という意味合いをホームとして共通認識を持つところまでには至っていない。	※	ホームの周りは農地であり、近接している建物が郊外型の飲食店という立地状況ということもあり、「地域」というイメージが難しい面はあるが、現状の地域でどのような活動、展開が可能か、理念を話し合う中で創り上げていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ユニット会や日々の話し合いの時等、理念を共有し取り組んでいる。 (外部評価) 「その人をよく知ることがケアの基本」ということを、理念を実践するための道しるべとしている。管理者の話にも職員の話にもこの基本からブレがなく、日々真摯に取り組んでいることがうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時に説明し、運営推進会議時にも話し、地域に根ざした取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や出勤時に会った時や畑に来られている時等、挨拶をしたり立ち話をしたりする、グループホームに関心を持ってもらえるようになった。	※	地域に向くきっかけづくりとして、何事にも入って行くようにしたいと思う、地域の行事に積極的に参加している。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 行事や地域活動に参加し、交流を深めている、又施設の行事等にも参加して頂いている。 (外部評価) 散歩時の挨拶や、畑で作業中の住民との交流などは行われているが、ご近所づきあいという関係にまでは至っていない。自治会への参加も職員が中心であり、利用者は地域住民としての関わりが少ない傾向にある。	※	管理者による民生委員との新たな関わりが模索されており、「近所の方々にお茶を飲みに来てもらいたい」というホームの方向性も決まっている。そのためには、管理者が地域に関わる物理的時間の確保が必要であるため、業務体制の考慮も視野に入れて本格的な取組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近所の高齢者の方が気軽に立ち寄り、お話しでもして時間を過ごして頂ける様に働きかけている、又地域の方から相談があった時は対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を基に、職員が理解出来ていない事や、アドバイスをもらったことに対して話し合いをして、勉強会をしたり普段から意識的に言葉に出るようになった。 (外部評価) 評価は4回目であり、管理者の交代や職員の入れ替わりが少ないため、評価の意義はよく理解されている。また、評価の回数を重ねる毎に、自らのケアを振り返る重要な機会であることの認識が深まっており、評価での改善策の具現性が高まっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 個々人のケアの取り組みや評価後のホームでの取り組みを説明し、出来ていること、まだまだ勉強中のこと等、話し合いに出し活かしている。 (外部評価) 運営推進会議開催の回数は10回を超え、議事録からは、スタート時は手探りで進行に苦勞の跡も見えるが、馴染んでいっている様子がうかがえる。今後は地域との交流の時間にもしたいと新たな取り組みも考えており、利用者のサービスの向上を意識していることがうかがえる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村へは、度々足を運び相談にのってもらったりする機会がある。 (外部評価) 市担当者とは、運営推進会議やホーム運営の報告、相談以外の話し合いを持つ機会は少ない傾向にある。また、地区担当の保健師などとの付き合いも多いとはいえない。	※	運営推進会議に参加してもらっているが、機会を多く作りたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今は相談を受けたケースはないが職員も勉強会等で理解を深め必要な人には活用出来る様、職員も学ぶ機会を持っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、職員全員徹底して防止に努めている。	※	全職員が理解出来る様、学ぶ機会を持ちたい。

自己 評価	外部 評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に十分な説明を行い、理解を頂き納得して頂いている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口を設け、意見や不満を伺う機会を設けている、利用者に意見等聞くこともしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 健康状態や金銭管理は来園された時、詳しく説明している。 (外部評価) 管理者は、利用者へのケアの質を上げるにはホームと家族のよい関係が必要であるとの考えのもと、家族等への報告には余念がない。面会が多いとの話も、家族への細やかな配慮の賜物と推察できる。母体法人が作成している広報誌にもホームの生活状況が記載されており、家族への情報通信手段になっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口を設け、意見や不満を伺う機会を設けている。 (外部評価) 家族等の面会時は意見を拝聴できる機会として、管理者や職員ができるだけ対応するように心がけている。また、家族が入れやすいよう、意見箱は職員が目に入らない場所へ設置されており、配慮がある。母体法人にも苦情受付担当者を設けるなど、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時に意見を聞く機会を設けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況に応じた、勤務体制にしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 自然と受け入れ出来る様、代わりましたと言う言い方はせず、少しずつ馴染んでもらえるよう、それとない説明をしている。 (外部評価) 職員の異動や離職が少ないため、利用者への影響も少ないホームである。母体法人や管理者が、職員が働きやすい環境となるように心がけているからこそ離職者が少ないと考えられる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修への参加を進め、働きながら学ぶ、自らも向上するよう進めている。 (外部評価) 管理者が職員の経験やスキルによって研修が受講できるように計画を立てている。職員も向上心が高く、法人内の研修に限らず積極的に参加している。また、各自が身につけた技術などは、共有できるように勉強会も行っている。	※	職員の意識を高め向上するように、学習する機会を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域での勉強会や活動に参加をしネットワーク作りや交流に勤めている。	※	地域の他事業所と交流を取って行きたい。
			(外部評価) 母体法人が運営している施設やデイサービスセンターの職員との交流は頻繁に行われており、合同の勉強会などで相互の質の向上に努めている。しかし、他のホームや事業所との交流は持たれていない。	※	地域包括支援センターの職員が、管轄のホーム連絡会を行うという企画があるのであれば、その場でホーム相互訪問や合同勉強会などを提案することで、交流する機会を確保できる。同職種との交流は自分のケアを見つめ直す機会であるので、早々に着手できることを望みたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会等で他の部署との交流をはかりストレスがないように取り組んでいる。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 常々自らが努力し、研修会等で自身の向上に向け努力するようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前には本人さんや家族さん希望を聞き、本人さんをよく知る機会を作り受け止めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前には本人さんや家族さんと話し合い、意見希望を聞きそれに答えるように、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、必要とする支援を家族や本人、関係者から聞き取り相談し対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族さんと連携をとりながら、場の雰囲気になれて頂く様にしている、又入居前には見学して頂いたり、ホームで生活している方とお話するなど、馴染んでいる。 (外部評価) 現在の利用者は、自宅から入所の人もいるが、多くは施設や病院からの申し込みである。利用者がなるべく早く馴染めるように、職員が笑顔で寄り添うような関わりを心がけている。しかし、新規利用者に対しては、職員の優しい対応も必要であるが、少しずつホームに係わる時間を長くするような仕組みも検討する必要があると思われる。	※	ホームにはデイサービスセンターが併設されている。この機能とリンクし、通いながら泊まりへ、泊まりから利用へと移行するなど、利用者が少しずつ馴染めるような仕組みの計画を期待する。また、気軽なお茶会なども考えているようなので、利用者が馴染みながらのサービス利用につながると考えられるため、今後の取り組みに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々生活を共にすることで、職員が学ぶことがあったり、いい関係作りができています。 (外部評価) 利用者にも集団生活であることの重要性を理解してもらうこともホームでのケアには必要であるとの理念で、利用者同士の支え合いを積極的に支援している。その関わりの中で、利用者の側面を垣間見ることで、人生の先輩としての敬愛する気持ちが自然と湧いており、よい関係が構築できている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時は会話をし家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人さんの現状や生活ぶりをお知らせしたり、面会が多くなるよう支援をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人さんが今までしてきたことを続けられるよう、家族と共に支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 何をすることも皆でしようとする関わり合いが、お互いを支え合えるようになっている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去された方の家族さんとも継続的に関わり、いい関係が出来ている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活を見ていながら、職員が本人さんの思いや希望を聞きだしたりする様、努めています。自分から訴えできない方はこちらから聞いたり、返事だけし、イヤとか頭を動かすだけの方も思いに近い形で検討している。 (外部評価) 管理者の「その人を理解する」とのケア理念が職員にも行き届いており、職員間では利用者の情報が共有できている。また、利用者との関わりの中で新たな気づきがあった場合は申し送り書などに記録し、全員が把握する仕組みがある。これらの情報等は、利用者の意向を把握するために活用することも徹底されている。	※	日々の生活で本人さんの希望を活かした支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人さんや家族さんから聞かせて頂いたり、サービス利用経過も把握している。	※	内容をもっと詳しく聞き取り、生活支援につなげて行きたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の申し送りを確実にを行い、一人一人の状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを開き意見を出し合い、介護計画の見直し等をしている。 (外部評価) 利用者には担当職員が決まっているが、職員全員で介護計画を検討している。また、体調によって薬の調整が必要な利用者などには、病院関係者にも意見を求め、生活重視の介護計画作成に心がけている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化が生じた度に家族さんに連絡し、相談し進めている、支援内容の変更も現状に即した計画を作成している。 (外部評価) 介護計画の見直しは3か月ごとに行われている。また、日々の介護計画の評価はモニタリングシートに記載されており、毎月のケア会議でチェックした際に変化等があった場合は、定期の期日を待たずに見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し様子等を共有しながらケアの実践に反映している、又ケアプランの見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人さんや家族さんの要望を聞き、同事業所との連携をはかり支援している。 (外部評価) 同じ建物にデイサービスがあり、ホーム利用者との交流など柔軟な対応がなされている。また、ホームの車が用意されているので、利用者の生活支援として受診や買い物などの送迎などにも利用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の民生委員さん、消防署、その他の協力を頂き、意見交換や訓練等を行い支援している。	※	地域の方にグループホームを理解して頂ける様に努めたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じ地域の他のサービス事業所やケアマネジャーと話し合いサービスを受ける為の支援が出来る。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて相談したり、研修等にも参加している。	※	地域包括支援センターを通じて他の事業所との関係作りも深めて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 地域の中にある医療機関を関係を築き、ご家族も納得される医療を受けている。 (外部評価) 利用者の状態によりかかりつけ医は異なっており、細やかな対応が行われている。また、同法人の訪問看護ステーションとの連携で、医療的な支援もスムーズに行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) それぞれの専門の医師に相談し関係を築いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションの訪問を週2回受け、日常の健康管理を医師と連携をとりながら支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院関係者と相談し、情報交換に努め連携をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 御家族の意思を尊重し、話し合いを続けながら医師と連携をとり方針を共有している。 (外部評価) 利用者の重度化や終末期に関しては、同法人の訪問看護ステーションとの連携で方針が立てられている。ホームの職員の中には施設等での経験者もあり、終末期には家族との協働が必要との認識は深い。また、ホームでの医療的ケアの限界も承知しており、入院などのタイミングの検討もなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医師や訪問看護ステーションと共に取り組んでいます。今後の変化に備えた検討も行なっている。	※	終末期に対する職員の研修も行いホーム全体の取り組みとして勉強していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 御家族と相談し、他施設と情報交換に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーを守り、言葉かけや個人記録等徹底している。 (外部評価) 利用者への声かけは、耳で話しかける、スキンシップを取りながら、マジックボードに文字を書きながら等、利用者それぞれが心地よい状態で話ができるように工夫している。会話の様子から、家族同士の会話のような気安さがあるが、職員は目上の人と話しているという立場を守っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 希望が表せるよう、声かけや納得のいく、解り易い説明をして、希望に沿った支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人さんのペースに合った過ごし方をしている人もいるが、決められる人は少ない為、何がしたいか聞いて見る事もある、又入居者の方が誘い合ってゲームや体操、歩行運動などする事もある。 (外部評価) 利用者のペースを大切にケアを行っているが、共同生活という枠組みは崩さない暮らしが提供されている。そのため、生活全般が本人の希望通りにならないこともあり、利用者との葛藤もある。その場合は職員の予定業務も滞りがちになるが、それでも共同生活という枠組みを守ることで、利用者の生活の質を担保しようとしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) お化粧を勧めたり、おしゃれな洋服を勧めたり、散髪は美容師さんに訪問してもらったり、家族さんと一緒に馴染みの所へ出かけたりする。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者さんの出来る力を活かしテーブル拭きや片付けをしながら楽しい食事が出来る様、職員も一緒に食事をしている。 (外部評価) 利用者の状態に応じて食前食後の作業を分配し、食事をみんなで作り上げたという気持ちになるような支援を行っている。食後自分の食器を洗うこと日課にしている利用者が、職員と一緒に並んで作業をしている姿はしっかりと馴染んでおり、楽しんでいる状態が見て取れた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒を飲まれたり、タバコを吸ったりする方は今の所はいないが希望に沿うように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄記録により本人さんのパターンを把握し、紙パンツやオムツを減らしていきける様、活かしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 時間帯の希望はないが、順番は希望される為、他の方と相談し組み合わせている。 (外部評価) 入浴の時間帯は午前と午後に設定されており、その中で順番等利用者の希望に添うようにしている。職員は入浴ケアは利用者との信頼度を増す重要な時間として大切にしており、心地よいサービスが提供できていることがうかがえる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 休みたい時に休んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 出来ることでの役割を決め、その人の力に合った支援をしている。 (外部評価) 管理者の「人を見る」という信念が職員全員に行き届いており、利用者それぞれの生活歴を把握する取り組みが徹底されている。その情報を活かすためにも生活支援の基本を「本人ができることは集団生活の中で有効に活かしていく」としており、強要するのではなく利用者がその気になるまで待つケアが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人さんがお金を持ち使っている人もいる。他の方は預けているが、スーパー等でお金を支払ってもらったり、自分で買い物をした気分になる支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人一人の希望は出来ない時もあるが、希望に添えるように支援している。 (外部評価) 管理者や職員は、生活における外出の意義をよく理解しており、散歩などを日課にしている。外出を嫌がる利用者には、目的（外食等）を話し合うことで外出を促すなど、積極的な支援が行われている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族さんと外出する機会があり、先祖の墓参り等行かれる。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を出したり、電話の希望があれば出来る様に支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会して頂けるよう、居室以外でも過ごせるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 出入り口の鍵は掛けないケアを実践している。 (外部評価) 玄関やユニット入口は、夜間の防犯目的以外にはかぎは掛けられていない。確実な見守りのために所在確認表とセンサーを活用しており、利用者の安全にも配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認表をチェックし、様子を把握し安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の危険性に応じて、保管管理している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 転倒を防ぐ為の勉強会をするなど事故防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) すべての職員が訓練を受けていないが、他の職員がうけ、ホームでの勉強会で備えている。	※	日常的に対応や手当での訓練をして行きたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の訓練に参加したり、ホームでの避難訓練も定期的におこなっている。 (外部評価) ホームでの避難訓練は年2回行っており、地域の訓練にも参加している。近くに消防署があり連携も取れていて安心感もあるが、職員の「火事を出さないことが一番の対策です」という言葉には、災害対策には日頃から気を付けていることがうかがえる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 高齢者が生活する中で起こりうるリスクについて、入居時にも説明し、納得してもらっています、家族さんとも話し合いできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 変化や異変を発見した時には、速やかに家族さんや医師と連絡をとり対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 理解を深め、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘がちの方には、マッサージや水分補給等をおこなっている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後には必ず、歯磨きをし、ポリドントによる清潔保持にも努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量をチェックしたり、水分量も一人一人解る様にしている。 (外部評価) 運営法人の栄養士の管理の下、栄養バランスの良い食事が提供されている。また、食べるのが好きという管理者は、メニューに季節感を入れるなどの配慮がある。利用者の水分確保のため、お汁ものやお茶等、様々な工夫を凝らしながら支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザ予防接種を受けたり、手洗いや消毒、清掃を欠かさずしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 乾燥機やハイター消毒をして衛生管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関回りには花を植えたり、いつでも自由に来ていただける様にしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一般家庭の様なお風呂、台所、トイレ、テーブルも木製で生活観が出ています、又お風呂にはしょうぶ湯やユズ湯など季節感をだしている。 (外部評価) 共用空間を、家具の配置でダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。利用者と職員が話し合いながら心地よい共用空間を作っていることが、ユニットにより表情が全く異なっていることからうかがえる。それぞれ個性が出ており、過ごしやすい雰囲気がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファを置き、仲の良い方が話しをしたり居眠りをして過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時には使っていた物等を持って来て頂いて、本人さんの思い思いに配置し過ごされている。 (外部評価) 利用者により配置している家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度調節はこまめにし、状況に応じて換気に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりがあり、歩きやすく、又下肢の筋力低下にならない様、運動している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 場所に目印をつけたり、日めくりカレンダーをなどを利用している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花畑には季節の花を植えたり、畑に野菜を植え収穫を楽しんだり、草引き等も一緒に行なっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者さんの希望を聞いて、出来る様努めている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者さんと一緒に運動やテレビを見たりレクレーションをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホール、居室など思い思いに過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんと職員はコミュニケーションや信頼関係が取れている為、支援により笑顔や安心した表情や姿が見られている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月の行事で花見、ぶどう狩り、バーベキュー、コスモス見学等外出行事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月1回の往診があり、又週2回の訪問看護ステーションの看護師の健康管理があり、その都度相談できる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調や精神状態、その時々要望に合わせた支援を行なっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面接時や必要な時には、家族さんと連絡を取り合い、支援につなげている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	馴染みの方や近くの農家の方が野菜などを持ってきて下さる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の参加の呼びかけを行い、理解して頂ける様、ホームなどでしていることなどを報告している。
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の事など何かあれば、よく話し合い意見を出し合い向上心を持って働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんと職員のコミュニケーションは取れており、希望や要望は日頃話し合い改善できている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	日頃より、家族さんともコミュニケーションをとり、希望や要望の確認に努めている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

理念である「家庭的な温かい雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな生活を支援します」に添って支援し、当たり前なのが、当たり前出来るグループホームにし、職員自身が入所したいと思うグループホームにしたいです。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ウェルケア みどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)
氏名 山本 明美

評価完了日 平成 19 年 12 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設時からの理念があり、又少しずつではあるが地域との交流も増えつつある。 (外部評価) 利用者が、家庭的な雰囲気の中で穏やかで豊かな生活が営めるように支援することを基本理念としており、そのためには地域との交流は必要不可欠であるとの認識は深い。しかし、「地域とは」「密着とは」という意味合いをホームとして共通認識を持つところまでには至っていない。	※	ホームの周りは農地であり、近接している建物が郊外型の飲食店という立地状況ということもあり、「地域」というイメージが難しい面はあるが、現状の地域でどのような活動、展開が可能か、理念を話し合う中で創り上げていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関前に掲示しており、ユニット会などで話し合っている。 (外部評価) 「その人をよく知ることがケアの基本」ということを、理念を実践するための道しるべとしている。管理者の話にも職員の話にもこの基本からブレがなく、日々真摯に取り組んでいることがうかがえる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時に、利用者さんや家族さんに説明し、運営推進会議などで地域の皆様に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 運営推進会議や日々の散歩などで、挨拶や世間話などを、利用者さんと職員と近所の方でしたり、暇があったら立ち寄って下さいと話している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近くのサロンに出かけたり、地域の防災訓練などにも参加し、秋祭りの神輿なども着てもらっている、又グループホームの夕涼み会などにも地域の方などにも参加していただいている。 (外部評価) 散歩時の挨拶や、畑で作業中の住民との交流などは行われているが、ご近所づきあいという関係にまでは至っていない。自治会への参加も職員が中心であり、利用者は地域住民としての関わりが少ない傾向にある。	※	管理者による民生委員との新たな関わりが模索されており、「近所の方々にお茶を飲みに来てもらいたい」というホームの方向性も決まっている。そのためには、管理者が地域に関わる物理的時間の確保が必要であるため、業務体制の考慮も視野に入れて本格的な取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の方が介護保険について相談に来られた際は、相談にのり、状況に応じて地域包括支援センターや居宅介護支援事業所を紹介している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が自己評価を行い、評価結果を踏まえ改善に取り組んでいる。 (外部評価) 評価は4回目であり、管理者の交代や職員の入れ替わりが少ないため、評価の意義はよく理解されている。また、評価の回数を重ねる毎に、自らのケアを振り返る重要な機会であることの認識が深まっており、評価での改善策の具現性が高まっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、外部評価の結果を議題にしサービス向上につなげている。 (外部評価) 運営推進会議開催の回数は10回を超え、議事録からは、スタート時は手探りで進行に苦労の跡も見えるが、馴染んでいっている様子がうかがえる。今後は地域との交流の時間にもしたいと新たな取り組みも考えており、利用者のサービスの向上を意識していることがうかがえる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 今の所、運営推進会議以外ではあまりありません。 (外部評価) 市担当者とは、運営推進会議やホーム運営の報告、相談以外の話し合いを持つ機会は少ない傾向にある。また、地区担当の保健師などとの付き合いも多いとはいえない。	※	今後は関わる機会を増やして行きたいです。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修には参加しているが、職員全員が理解はしていない。	※	職員全員が、理解出来る様、勉強会を行いたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が、虐待がない様に細心の注意をはらって、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や利用契約書を基に説明を行い、納得してもらっている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族さんの面会時に一緒に話を聞いたり、利用者さんにも運営推進会議に出席していただいているので、外部者へ表せる機会を設け、運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族さんの面会時に利用者さんの健康状態や預り金の出納表を確認してもらっている。 (外部評価) 管理者は、利用者へのケアの質を上げるにはホームと家族のよい関係が必要であるとの考えのもと、家族等への報告には余念がない。面会が多いとの話も、家族への細やかな配慮の賜物と推察できる。母体法人が作成している広報誌にもホームの生活状況が記載されており、家族への情報通信手段になっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先に意見箱を設置してあり、又苦情相談窓口もあり、家族さんも運営推進会議に出席してもらっているので外部者へ表せる機会を設け、運営に反映している。 (外部評価) 家族等の面会時は意見を拝聴できる機会として、管理者や職員ができるだけ対応するように心がけている。また、家族が入れやすいよう、意見箱は職員が目に入らない場所へ設置されており、配慮がある。母体法人にも苦情受付担当者を設けるなど、家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会などで意見交換や提案などを話し合っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ユニット毎に、利用者さんの状況に応じて柔軟に対応し、勤務を調整している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動や離職がある場合には、必ず引き継ぎ等を行い利用者さんに不都合がない様に配慮している。 (外部評価) 職員の異動や離職が少ないため、利用者への影響も少ないホームである。母体法人や管理者が、職員が働きやすい環境となるように心がけているからこそ離職者が少ないと考えられる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会やホーム内の勉強会などに出席し育成している、又現場などでケアに付いて話しあっている。 (外部評価) 管理者が職員の経験やスキルによって研修が受講できるように計画を立てている。職員も向上心が高く、法人内の研修に限らず積極的に参加している。また、各自が身につけた技術などは、共有できるように勉強会も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同法人内の行事などに参加し交流している、又研修などに参加し職員間の交流をはかっている。 (外部評価) 母体法人が運営している施設やデイサービスセンターの職員との交流は頻繁に行われており、合同の勉強会などで相互の質の向上に努めている。しかし、他のホームや事業所との交流は持たれていない。	※	地域包括支援センターの職員が、管轄のホーム連絡会を行うという企画があるのであれば、その場でホーム相互訪問や合同勉強会などを提案することで、交流する機会を確保できる。同職種との交流は自分のケアを見つめ直す機会であるので、早々に着手できることを望みたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会やユニット会後の座談会などで、話を聞いている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況や実績を把握し、各自の向上心を大切にし、資格取得に向けて頑張っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問より、本人さんと話を聞く機会を作り、申し送り等で職員全員が、把握出来る様になっている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問より、家族さんと話を聞く機会を作り、申し送り等で職員全員が、把握出来る様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用前訪問時に、家族さん本人さんと話し、必要に応じて担当ケアマネージャ等と相談し、他のサービスに応じた対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 随時、見学が出来、利用前には家族さんや本人さんに見学に来てもらいグループホームの雰囲気を覚えてもらっている、又家族と相談し、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、本人さんが落ち着くように配慮している。 (外部評価) 現在の利用者は、自宅から入所の人もいるが、多くは施設や病院からの申し込みである。利用者がなるべく早く馴染めるように、職員が笑顔で寄り添うような関わりを心がけている。しかし、新規利用者に対しては、職員の優しい対応も必要であるが、少しずつホームに係わる時間を長くするような仕組みも検討する必要があると思われる。	※	ホームにはデイサービスセンターが併設されている。この機能とリンクし、通いながら泊まりへ、泊まりから利用へと移行するなど、利用者が少しずつ馴染めるような仕組みの計画を期待する。また、気軽なお茶会なども考えているようなので、利用者が馴染みながらのサービス利用につながると考えられるため、今後の取り組みに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 毎食の食事やオヤツを一緒に食べたり、食事中的会話から学んだり、昔の習慣を覚えてもらい行事に反映している。 (外部評価) 利用者にも集団生活であることの重要性を理解してもらうこともホームでのケアには必要であるとの理念で、利用者同士の支え合いを積極的に支援している。その関わりの中で、利用者の側面を垣間見ることで、人生の先輩としての敬愛する気持ちが自然と湧いており、よい関係が構築できている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事と一緒に参加してもらったり、面会時には職員も一緒に話の中に入り、共通の時間を共に過ごさしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事などに一緒に参加して頂き本人さんと家族さんの関係が保てる様に支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの友人や知人の方にも面会に来て頂いたりしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) テーブルの席などを配慮し、孤立しがちな利用者さんには職員が付き添っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じて、訪問したり電話を掛けたりして行きたい。	※	今後、積極的に訪問や電話を掛けたりして行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用前調査時に思いや希望を把握し、又入所後も本人さんに希望などを聞き対応している。 (外部評価) 管理者の「その人を理解する」とのケア理念が職員にも行き届いており、職員間では利用者の情報が共有できている。また、利用者との関わりの中で新たな気づきがあった場合は申し送り書などに記録し、全員が把握する仕組みがある。これらの情報等は、利用者の意向を把握するために活用することも徹底されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前調査時に本人さん、家族さんより詳しく聞き、ケースファイルに記入し職員全員が把握出来る様になっている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケースファイルに記録し職員間で状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプラン会議を行い職員等で話しあっている。 (外部評価) 利用者には担当職員が決まっているが、職員全員で介護計画を検討している。また、体調によって薬の調整が必要な利用者などには、病院関係者にも意見を求め、生活重視の介護計画作成に心がけている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 基本的に3ヶ月に1回ケアプラン会議を行い、状態に変化があった時にはその都度、ケアプラン会議を開催し介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画の見直しは3か月ごとに行われている。また、日々の介護計画の評価はモニタリングシートに記載されており、毎月のケア会議でチェックした際に変化等があった場合は、定期の期日を待たずに見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録に記入し、職員間で共有出来る様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族さんの要望に応じて、外泊や外出、病院受診の対応をしている、又ハード面では同法人の協力も得ている。 (外部評価) 同じ建物にデイサービスがあり、ホーム利用者との交流など柔軟な対応がなされている。また、ホームの車が用意されているので、利用者の生活支援として受診や買い物などの送迎などにも利用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年2回の避難訓練で消防署の方や、運営推進会議などで民生委員の方などに支援してもらっている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて支援していきたい。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて協議していきたい。	※	今後、必要に応じて協議していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前に、本人さん及び家族さんの希望を聞き、納得の上、関係を築いている。 (外部評価) 利用者の状態によりかかりつけ医は異なっており、細やかな対応が行われている。また、同法人の訪問看護ステーションとの連携で、医療的な支援もスムーズに行われている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 定期的に往診して下さる担当医がおり、往診時に診断や相談が受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションの看護師が週2回訪問して下さり、健康管理をしてもらっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者さんが入院した際に安心して過ごせる様に、定期的に面会に行き、早期に退院出来る様、家族さん病院関係者と相談しています。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りに関する指針があり、入所時に説明しています。 (外部評価) 利用者の重度化や終末期に関しては、同法人の訪問看護ステーションとの連携で方針が立てられている。ホームの職員の中には施設等での経験者もあり、終末期には家族との協働が必要との認識は深い。また、ホームでの医療的ケアの限界も承知しており、入院などのタイミングの検討もなされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看取りに関する指針・同意書があり、それに沿って支援します。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 別の居所の担当者と連絡を密に取り、可能な限り情報提供をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーを損ねる事のない様、細心の注意を払っている。 (外部評価) 利用者への声かけは、耳元で話しかける、スキンシップを取りながら、マジックボードに文字を書きながら等、利用者それぞれが心地よい状態で話ができるように工夫している。会話の様子から、家族同士の会話のような気安さがあるが、職員は目上の人と話しているという立場を守っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望を表せれる様に、声かけ、説明を行い納得してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんのペースに合わせた援助をし、本人さんの希望に沿った援助を日々、心掛けている。 (外部評価) 利用者のペースを大切にケアを行っているが、共同生活という枠組みは崩さない暮らしが提供されている。そのため、生活全般が本人の希望通りにならないこともあり、利用者との葛藤もある。その場合は職員の予定業務も滞りがちになるが、それでも共同生活という枠組みを守ること、利用者の生活の質を担保しようとしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 洋服などは、一緒に買い物に出かけ、本人さんの好きな洋服を購入し、美容は本人さんの望む髪型にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー作りの段階で利用者さんの希望を取り入れ、職員と一緒に準備や食事作り、片付けをしている、又利用者さんの状況に応じて刻みやおかゆなどの対応をしている。 (外部評価) 利用者の状態に応じて食前食後の作業を分配し、食事をみんなで作り上げたという気持ちになるような支援を行っている。食後自分の食器を洗うこと日課にしている利用者が、職員と一緒に並んで作業をしている姿はしっかりと馴染んでおり、楽しんでいる状態が見て取れた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お茶やコーヒー、紅茶など本人さんの好みの飲み物をお出ししている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に沿うように入浴を心掛けています、又入浴中もリラックスして入浴出来る様にしている。 (外部評価) 入浴の時間帯は午前と午後に設定されており、その中で順番等利用者さんの希望に添うようにしている。職員は入浴ケアは利用者との信頼度を増す重要な時間として大切にしており、心地よいサービスが提供できていることがうかがえる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に沿う様に休息してもらい、状況に応じて休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者さんの能力に合わせ、掃除、洗濯干し、食事作りなどの役割を持っていただいています、又散歩などに出かけ気晴らしの支援を行っている。 (外部評価) 管理者の「人を見る」という信念が職員全員に行き届いており、利用者それぞれの生活歴を把握する取り組みが徹底されている。その情報を活かすためにも生活支援の基本を「本人ができることは集団生活の中で有効に活かしていく」としており、強要するのではなく利用者がその気になるまで待つケアが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族さんと相談し、本人さんがお金を持つことを了解してもらっています、又希望に応じて使えるようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に応じ散歩をしています、又毎月行事があり外出もしている。 (外部評価) 管理者や職員は、生活における外出の意義をよく理解しており、散歩などを日課にしている。外出を嫌がる利用者には、目的（外食等）を話し合うことで外出を促すなど、積極的な支援が行われている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 毎月行事があり、外出をしている。（ぶどう狩り、花見、コスモス見学など）		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じて家族さんの電話をしたり、年賀状を出している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問出来る様に、声かけや挨拶を行い、ゆっくり過ごせるようお茶やアイスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット会などで身体拘束をしない様に話し合いをしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) センサーを設置し、所在確認表にて1時間ごとに所在を確認している。 (外部評価) 玄関やユニット入口は、夜間の防犯目的以外にはかぎは掛けられていない。確実な見守りのために所在確認表とセンサーを活用しており、利用者の安全にも配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 所在確認表があり24時間を通じてチェックしている、その際プライバシーに配慮し、行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者さんの状況に応じて取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が起こった場合は、ユニット会をし話し合いを行い、再発防止に取り組んでいます。又誤薬が無い様に薬に個人の名前を記入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルはあるが、実際、急変時に職員全員が応急手当が、出来るかどうかは、解らない。	※	今後、研修やユニット会を通じて出来る様にしていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練は行っており、緊急連絡網も作成している。 (外部評価) ホームでの避難訓練は年2回行っており、地域の訓練にも参加している。近くに消防署があり連携も取れていて安心感もあるが、職員の「火事を出さないことが一番の対策です」という言葉には、災害対策には日頃から気を付けていることがうかがえる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者の状況に応じて、家族さんに説明し、抑圧感のない暮らしをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異変時はケース記録に記入し、職員間で申し送りをし、場合によっては訪問看護ステーションに連絡し支持をいただいている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を理解し、病状の変化があれば医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分を十分取っていただき、又日々の散歩などを行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取表や水分摂取表があり、概ね把握出来ている。 (外部評価) 運営法人の栄養士の管理の下、栄養バランスの良い食事が提供されている。また、食べることが好きという管理者は、メニューに季節感を入れるなどの配慮がある。利用者の水分確保のため、お汁ものやお茶等、様々な工夫を凝らしながら支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症が蔓延しないように、毎日消毒液でテーブル、イス、手すり、トイレ、風呂等ふいている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 包丁、まな板、スポンジなどは、毎日消毒し、食材も1日で使いきるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前に花を植えており、看板も見やすい位置にあり解りやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 観葉植物や季節の花などを置いて季節感を出しています。又季節の飾り物も置いている。 (外部評価) 共用空間を、家具の配置でダイニングとリビングに区切り、生活のシーンでうまく使い分けている。利用者と職員が話し合いながら心地よい共用空間を作っていることが、ユニットにより表情が全く異なっていることからうかがえる。それぞれ個性が出ており、過ごしやすい雰囲気がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやテーブルにて、利用者さん同士思い思いに過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんが以前使われていた、家具を持ち込んで頂いて居心地よくすごしてもらっている。 (外部評価) 利用者により配置している家具は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各トイレに消臭剤を置いており、掃除機をかける際には、喚起をおこなっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを設置し、なるべくホーム内では、車椅子は使わないように心がけている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者さんの状態に応じて、自立に向けた支援をしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベランダにて一緒に洗濯干しを手伝ってもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の会話の中から、思いや願いを聞き出し、家族さんとも相談している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎食時やオヤツ時など利用者さんと一緒にゆったりと取っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんのペースで過ごされており、職員がそれに合わせている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が側で話を聞き、スキンシップを行い穏やかな表情や笑顔が引き出せるような、支援を心がけている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月の行事で花見、ぶどう狩り、バーベキュー、コスモス見学など外出行事がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎月1回の往診があり、又週2回の訪問看護ステーションの看護師の健康管理があり、その都度、相談出来る。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの状態や変化に応じた、職員の対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には日々の状態を伝え、又機関紙なども送付し信頼関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	知人の方や農家の方が野菜などを持ってきてくださる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	少しずつではあるが、増えていると思う、又地域のサロンにも出かけている。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ユニット会の座談会や親睦会などで話し合っている、又助け合って働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来るだけ利用者さんの要望を聞き入れ、利用者さんの表情も明るくなっている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	感謝の言葉を掛けてくださり、それが職員の励みになっている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

理念である「家庭的な温かい雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかに豊かな生活を支援します」に添って支援し、当たり前前のが、当たり前まえに出来るグループホームにし、職員自身が入所したいと思うグループホームにしていきたいです。